
中二な世界に跳ばされて

ガスキン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

中二な世界に跳ばされて

【Nコード】

N5057BA

【作者名】

ガスキン

【あらすじ】

その世界はノスタルジアと呼ばれていた。かつて、『名を与えし者』と呼ばれる人物が邪神を封印し、ノスタルジアを救った。しかし、それから千年後、ノスタルジアに再び暗雲が立ち込めようとしていた。高校二年生の竜胆 清人は、『月満ちる夜、救世主は聖王山の池を通じ、新たな世界へ旅立つ』という言い伝えを信じた中二病の友人に連れられ、聖王山の池に向かった。そこでちよつとした拍子に池に落下した清人は、気付くと見知らぬ場所で、見知らぬ女性の前に立っていた。言い伝えは本当だった。彼は救世主として

ノスタルジアへと跳ばされてしまったのだ。その世界で清人は、帰る方法を探しつつ、異世界ライフを送る事になった。果たして、彼は無事に元の世界に戻る事が出来るのだろうか。一度削除し、新しく書き直しました。また読んで頂ければ幸いです。

プロローグ 待つ者と見る者（前書き）

再スタートです。今度こそ面白い物を書いてみせます。

プロローグ 待つ者と見る者

森の中を一人の女性が歩いてきた。艶やかな紅い長髪を揺らし、同じく紅い目で、目的地の方角を一点に見つめている。その顔だけは街中を歩けば男達の視線を集めるには充分過ぎるほどの美しさだった。

しかし、彼女の纏っている物を見れば、彼女がただの女性ではないのだとわかる。陽光を反射し、輝いているのは服ではなく鎧。持っているのは鞆ではなく、巨大な剣。女性は前方を塞ぐ枝や草を剣で薙ぎ払った後、剣を背負い、今作った道を進む。

やがて、女性は森を抜け、大きな広場に出た。この広場こそが、彼女の目的地だった。女性は広場の中心へと進み、そこへ座り込んだ。

「……………」

動かず、しゃべらず、女性はただひたすら座り続けた……。いや、待っていた。心地よい風が彼女の頬を撫いで行くが、女性は目を閉じひたすら待った。気付けば、高くあがっていた太陽が、沈もうとしていた。

「……………今日も現れなかったか」

溜息を吐き、女性は立ち上がり、森へと歩き出した。出来る事なら、まだこの場に残っていたかったが、夜は魔物の動きが活発化する。この周りの魔物程度なら彼女にとっては相手にもならないものばかりだったが、それでも、両親や妹達に余計な心配をかけたくなかった彼女は、後ろ髪をひかれる思いでその場を後にした。

「救世主よ・・・そなたはいつになれば私の前に現れてくれるのだ・・・」

女性は空を見上げ、小さくそう呟いた・・・

少年は夢を見ていた。見た事も無い場所で、会った事の無い人物に囲まれていた。なのに、何故か少年は懐かしさを覚えていた。

「のう　　よ。お主、これからどうするつもりじゃ？」

古風な話し方で少年に声をかけたのは、背中から翼を生やした少女だった。その少女の問いに、少年の口は勝手に言葉を紡いだ。

「そうですね。世界は平和になりましたし、気ままに旅でもしまし
ようか」

「じゃあ、私も一緒にします！」

耳の上がった別の少女が手をあげてそう言った。さらに、その隣の女性も、さらにその隣の頭に角を生やした男性も同じ様に手をあげた。

「わたくしも一緒にしますわ」

「お前といると退屈しねえからな。嫌でもついて行くさ」

当然だとばかりな三人の態度に、少年は思わず声を出して笑ってし

まった。

「あはは、じゃあ、これからも一緒ですね。みなさん、これからもよろしく願います」

「「「はい！」（ええ）（おう）」「」」

「待てい！ 妾を無視して勝手に話を進めるでない」

「ならお前はどつするんだよ」

「当然、妾もついて行くぞ。妻である妾が夫である から離れるわけにはいかんからの」

「聞き捨てなりませんわね。 様の妻はわたくしですわよ」

「違います！ 私です！」

言い争いを始める三人。男性がニヤニヤしながら少年に話しかける。

「さすが、『リネーム・マスター』様はおモテになりますな」

「か、からかわないでくださいよ」

「はは、スマンスマン。それで、旅をするって言うが、進路はもう決めてるのか？」

「ええ、まずは西へ行こうかと」

「了解。それじゃあ出発しますかな。おいその三人、置いてくぞ」

歩き出した少年と男性の後を、三人の少女が慌てて追いかける。彼らの新たな旅は、こうして幕を開けたのだった。

.....

.....

.....

♪♪♪♪♪♪♪♪!

「.....ん」

目覚まし時計の音が鳴り響き、夢を見ていた少年は右手を動かしてそれを止めた。

「なんか・・・不思議な夢だったな」

少しだけ見ていた夢について頭を巡らせた少年だったが、すぐに別の事へ切り替えた。

「つと、そんな事より弁当作らないと」

少年は自室を出て台所へと向かった。

何かを待ち続ける女性と、不思議な夢を見た少年。一見、何の繋がりも無いこの二人が出会う所から、この物語は幕を開ける・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5057ba/>

中二な世界に跳ばされて

2012年1月13日23時47分発行